

1 未利用農地を活用するための肉用牛の簡易放牧技術

キーワード	未利用地、電気牧柵、肉用牛
担当	本所 技術部 管理課（芝原分場）
連絡先	電話：0248-25-2738 ファックス：0248-25-0471 電子メール：inquiry@nlbc.go.jp

1 背景・ねらい

家畜改良センターでは、肉用牛の生産振興と田畑や果樹園の未利用地の解消を目指して、電気牧柵を使った放牧システムの普及活動に取り組んでいます。

しかし、これらの未利用地では放牧の経験がないため、関係者の中には、「放牧施設の設置が難しいのではないか。」「資材購入にコストを要するのではないか。」などと思っている方がおられます。

そこで、福島県畜産試験場等で考案された手法を参考に、簡易で低コストな放牧技術を実証展示していますので紹介します。

2 内容・特徴・効果

現在普及している電気牧柵システム専用の発電ユニット（ソーラーパネル・バッテリー・発電機のユニット）とポリワイヤーを利用し、牧柵と水飲場に工夫を施しました。牧柵や水飲場は、既に多様な製品が市販されていますが、ここでは、ビニールハウス用パイプや塩化ビニールパイプなどを利用してみました。実際に、未利用地において実証展示を行ったところ、何ら問題はなく、十分活用できることが確認されています。

家畜改良センターでは、本所のほか肉用牛を飼養している牧場（十勝牧場、奥羽牧場、鳥取牧場、熊本牧場、宮崎牧場）においても、未利用地における肉用牛放牧に取り組んでおり、技術的なご相談にお応えしています。

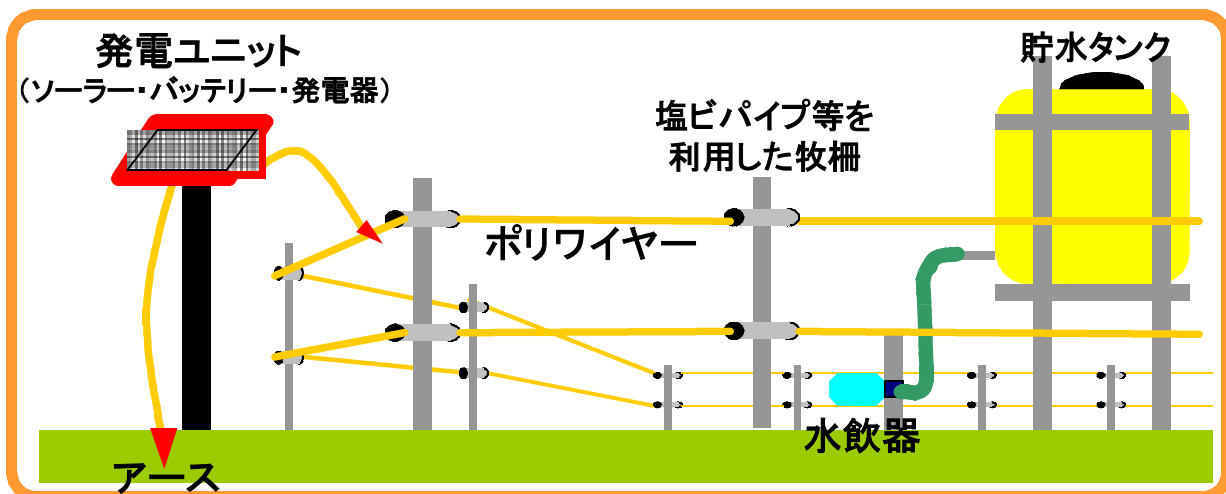


図1 電気牧柵システムの概要



塩ビパイプ



ゴムパイプ



碍子

写真1 各種絶縁資材を利用した電気牧柵



写真2 水飲器と貯水タンク



写真3 未利用地における
肉用牛の放牧